

平成 26 年度 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコースセミナー

日 時：2014 年 10 月 30 日（木）17:30～19:00

場 所：兵庫県立がんセンター 2階 大会議室

テーマ：『がん告知直後の心理的対応』

講 師：Marcia Shannon 先生

(Assistant Professor of Nursing Saginaw Valley State University)

受講生：95 名（アンケート回収：88 名）

主 催：兵庫県立大学看護学研究科 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

代表：内布敦子

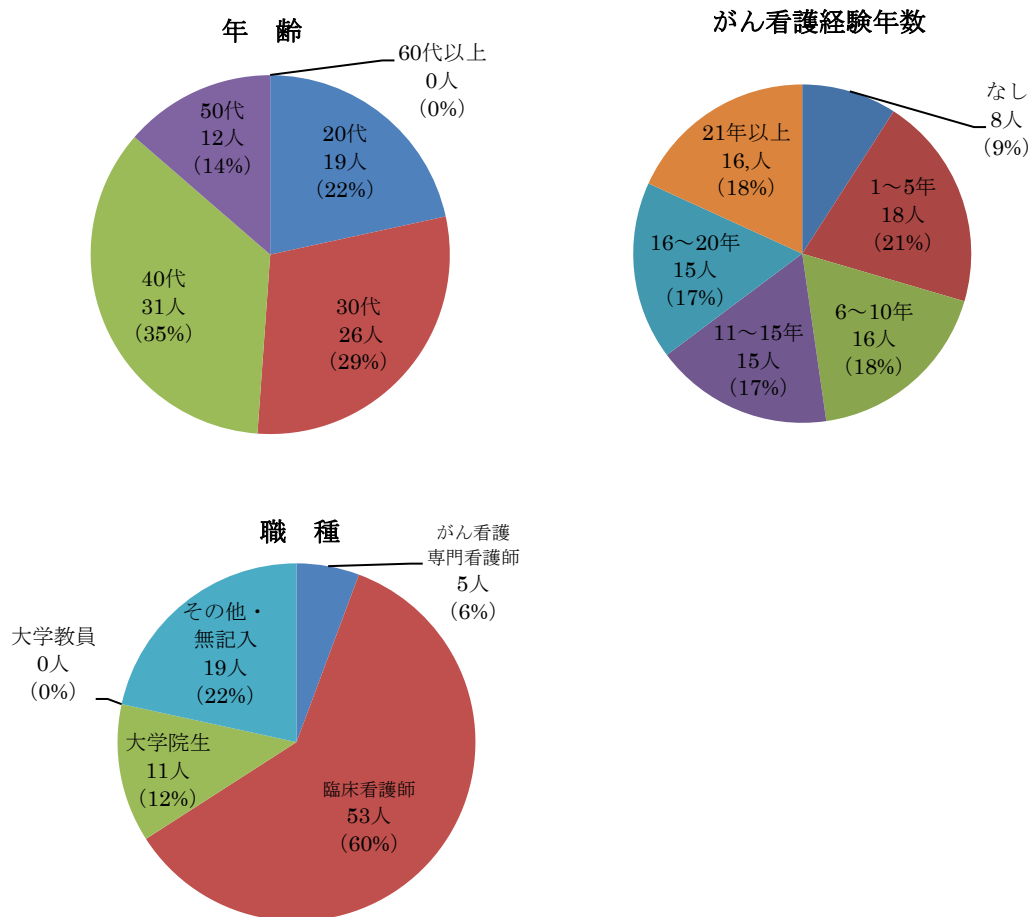
共 催：兵庫県立がんセンター 看護部

Marcia Shannon 先生をお招きし、精神看護の立場からみた「がん告知直後の心理的対応」についてお話いただきました。講義では、災害時のこころのケア：Psychological First Aid (PFA)を参考に、がん告知直後に、どのようにこころのケア（応急処置）をしたらよいかについて、具体的な対処方法や使用可能なツールなどをご紹介いただきました。

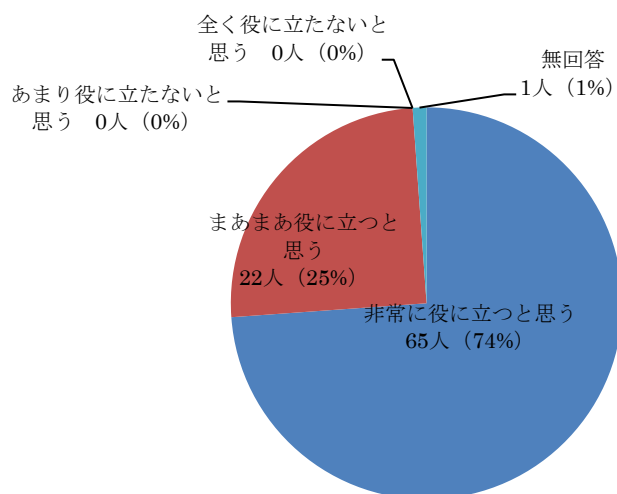


<アンケート集計結果>

Q1：最初に、あなたご自身のことについて、お尋ねします。



Q2-1：今回参加されたセミナーは今後役に立つと感じますか。



Q2-2：企画に参加してあなたが感じたことがあれば自由にお書きください

- ・ mentalヘルスは、外見上の判断が難しいので、スクリーニングを紹介いただき、とても参考になりました
- ・ 心理的対応を行う上では、患者さんを主体に接する必要があることを、再認識することができました。臨床経験がない分、理解が不十分な所もあるように感じましたが、今後の学習や臨床に出てからの実践の中で、生かしていきたいと考えています
- ・ 自分の考え方や、コミュニケーション方法等、少し違うことをやってみること、試してみることで、患者さんとの関係性を変えられるのかと感じました。直ぐに実践できる内容でした
- ・ 勉強になりました。エビデンスを示してくださったので、きちんとさらに勉強したいと思いました
- ・ とても良い勉強になりました。次々と患者さんの顔が浮かび、こうしてあげたら良かったのかな、次はこうしようかなと思えました
- ・ アドバイスが非常に具体的で分かりやすかったです
- ・ 同時通訳でもあったが、十分に心が通じた講演でした
- ・ 非常に参考になりました。ありがとうございました
- ・ すぐに実践できる内容だった。通訳が聞きやすかった
- ・ 様々な文献からの講義だったため、いろいろな知識や方法を知ることができて勉強になった。自分の日々の関わりの方向性は間違っていなかったと思えたことがあって良かった
- ・ 患者の意思や希望はよく確認するが、患者の力を見極めて自分で解決できることを信頼することが大切であると改めて実感した。大変興味深く楽しかったです。ありがとうございました
- ・ 知識の整理になりました。明日から使えそうです。ありがとうございました
- ・ Ptの主体性をというのはNsの役割がとても大きい
- ・ Ptの主体的に治療に取り組むことをサポートしていくことが重要だと思いました
- ・ 実際に行っているかかわりに対してのアドバイスが多く、とても役に立った
- ・ ガン治療を受けた患者の心理的变化をくわしく知ることができました。患者から思いを聞きにくいこともあるが、信頼関係を築いて、少しでも話を聞けるようにしたいと思いました
- ・ 日頃、看護している上で悩んでいるところのヒントをたくさんいただきました
- ・ 海外の講師の方にセミナーしてもらいよかった。日本のことしか知らないなので、グローバルな見方ができる
- ・ 日々何げなくしている看護やコミュニケーションを客観的に評価していくことが重要だと感じた。今日の講義で日々の看護を振り返りながらしていることが間違っていなかったと実感できた

- ・Ptより怒りをぶつけられる事があり、自分もストレスになる事が多かった。このセミナーを受けて、怒り等の表出は通常のことだと理解し、対応していこうと思った
- ・言葉かけ1つで患者から引き出せる情報も異なってくるのだなと思った。ぜひ今後の看護に活かしていきたい
- ・楽しかったです。苦悩レベル高くなる時「退院時」とありました。医療者からみて、退院できると感じていてもPt本人にとっては、自宅に帰る事は不安が大きくなるのだという事を改めて理解しました。不安を少しでも軽減できるように関わりたいと思います
- ・Ptのコントロール感を高める関わりが大事だということをいつも考えつつ、Ptの力を信じてケアできるようになりたいと思った
- ・セミナーをきいて、患者さんから今の思いをきけるようになるには、やはり信頼関係を築かなければ、本当の思いは聞き出せないと感じた
- ・患者さんが怒りを表現された時、ストレスを感じているけれど、どんな感情もOKと感ずることができれば、すごく気持ちが楽に患者さんにかかわれるように思います。患者さん自身がコントロールできる力をもっていると信じてケアできればと思います
- ・毎回色々な患者の言葉に対して、どの様に返すことが最善か、又これで良かったのかと自問自答することはよくあります。質問の仕方、声のかけ方一つで、患者に与える影響や反応も違ってくることを念頭において関わりたい。又、コントロール決定するのは患者自身であることも忘れず関わっていききたい
- ・患者さんをエンパワーしてセルフコントロール感を大事にするという本質の部分と、どういう場合にどう介入するかまで話されていたので、すごく実践的でよかったです
- ・正直さと患者さんを本当の意味での主体におくことの大切さを再認識しました
- ・患者さんがストレスフルになる時期を具体的に示していただいたので、この時期は注意しようとして医療スタッフで共通して理解しなくてはいけないと思った。相談室にも診断がされるまで、治療法が決まりまでの時期に不安が強くて来談する人が多いので、この時期のケアがまだ足りないと感じた
- ・具体的な方法が知れた。パワーを頂きました。ありがとうございました
- ・全体を通して意思決定や対処の主体はあくまでも患者であること、患者の決定や対処を支える、エンパワーすることが重要だということを感じた
- ・患者さんから質問されたときに、どのように返答していいか、具体的に教えて頂いたのでわかりやすかった
- ・怒りに対する患者の反応。診断時の対処行動について深めることができた
- ・苦悩のハイリスクリストやスクリーニングについて知り、気をつけて注意を払うことに気づきとなった。形式上にならず、今日の場合を含めた上で明日からの実践につなげたい
- ・いろんな場面での自分の言葉、言葉以外の伝え方を考える機会になりました

- ・難しい所もありましたが、参加させていただき有難うございました。大変貴重な話を聴かせていただきました
- ・患者が示す反応をよくみてキャッチし、どのように介入していくべきか考える機会になりました
- ・具体的な例や実践を挙げてくださったので、何か変えられる気持ちになりました
- ・New normal の観点が新鮮に感じました。これからの実践に活かしたいと思います
- ・質問表が、具体的にどのようなものか知りたいです。4か5なら精神科のフォローが要と話されていたが、内容が想像できません
- ・今どのような気持ちになっているのか、確認していく必要があるとおもいました
- ・がん看護の経験が浅いため、今回のセミナーにより患者とのかかわり、信頼を築く必要性を学ぶことができた
- ・解決するのは患者である。Nsはどうにかしてあげたいと解決策を模索するが、患者自身が解決策を見いだせるように関わるのが大切
- ・臨床にいと、つい医療がよいと思う方向へ誘導してしまいがちです。Pt 主体的であることの重要性を改めて感じました。特に「効果が立証されていない治療を選択」の対応は、Pt の思いや希望を引き出すのに有効だと思いました
- ・患者が主体である事を確認できた。つい、私の考えをおしつけそうになる（熱くなってくると）ので、注意しなければいけないと思いました。家族、家系に精神疾患を患っていることをPt が話してくる事に時間がかかる
- ・スクリーニングが大切であることを学んだ。毎日臨床で患者を見るなかで、常にアンテナをはり、患者の変化をみているつもりだ。これもスクリーニングになるだろうか。スクリーニングできるチェック表などがあればより正確にスクリーニングできるのだろうか。明日からももう少し患者にタッチしてみようと思う
- ・オンラインコミュニティを紹介するのは、とても効果的だということを今まで考えたことがなかったので、とても新鮮でした
- ・日頃行っていることなどと逸脱していないので安心しました。知識の整理、裏付けになった
- ・具体的な内容が多く、イメージしやすく、今後役立てていけそうです
- ・Pt、Fa と良い関係が気づけたと感じるときは、やっぱりコミュニケーションを良くとっていた時や、ベッドサイドに良く行っていたりするので、やっぱり信頼関係が大切で、これからもベッドサイドへ行くことを積極的に行っていきたいと思う
- ・日常Pt と対面シケアをおこなう中で考えていることを整理、確認することができました
- ・まだがん看護の経験年数が浅く、ここの患者の不安や落ち込みの反応に対する対応に困る事がある。しかし今回の講演の内容の中に、具体的な対応と声掛けの例があり、明日から実践に生かしていきたい。ありがとうございました

- ・日頃行っていることが正しいことであると再認識できました。Pt が主体であり、全てのことを Pt がコントロールできるようにサポートすることが重要なのだといわれていましたが、実際業務の中で、こちらが誘導してしまうこともあるので、少し反省です
- ・患者さんへの接し方や、患者さんの想いに寄り添って、という所を振り返り、患者さんに還元していきたいと思いました
- ・臨床で働くなかで、患者さんを主体として支援することができないことがあったと思う。今回の講義を受けて、改めて、治療やケアの主体は患者さんであり、看護師として、患者さんの気持ちや置かれている状況を理解し、受け止めて支援していきたいと思った
- ・声かけ、言葉の選び方ひとつで、患者さんの心を開くことも閉ざしてしまうこともできるという、医療者の「言葉の重み」を改めて実感した
- ・人として感情を持つこと、表現することは当然のことだということを知り、少し安心。良くない感情や反応として見るのではなく、当然ということに対応しにくさが軽減された
- ・アメリカのがん看護も日本も同じだと感じました
- ・日頃の看護の振り返りの場となりました

がん看護実践において、現在どのようなことが課題としてあげられるでしょうか。

また、それを解決するために必要な情報、知識はどのような内容でしょうか。

Q3-1：がん看護実践上の課題をお書きください

- ・看護師が患者と接する時間が制約を受けること
- ・新しい薬剤、治療に関する知識不足。分からないまま薬剤投与、ケアしている現状がある。文献を見る必要性をと伝えることが大事だと思う
- ・患者本人と家族の意見に相違があり、明らかにどちらかの肩を持ってしまう場合、完全に中立であろうとすることにストレスを感じます。「こっちにしたら良いのに」と思ってしまう
- ・患者や家族で死について考える習慣のない人たちが増えて、自己決定できない人がふえつつある
- ・精神科領域の介入
- ・チーム医療→各職種のかんがえ方、価値観、Ns はコンサルティとしての役割を求められるが、どのように立ち回ればよいか
- ・包括的アセスメント。がんサバイバーシップ。倫理
- ・チームで統一することの難しさを感じている
- ・精神のスクリーニング
- ・ガン患者に対し、常に共感的な態度で接し、信頼関係が築けるような関わりをしていきたいと思いました

- ・ 心理的危機時における Pt や Fa とのコミュニケーションスキル。Dr や他のチームとのコミュニケーション力や調整力
- ・ 自己のメンタルをコントロールすること
- ・ 生活の場、背景、環境。個人情報、プライバシーを尊重する中で、相手を知る関係性
- ・ 入院期間の短縮化で、その間に、治療中の身体のケア+心のケアをしたいが、なかなか深いところまで心のケアをする時間をゆっくりとりにくい
- ・ 地域との連携、継続看護
- ・ がんになった Pt は弱者であり、Ns は Pt を守ってあげないといけないと思うが、上記のように関わりたいと思った
- ・ 年齢の若い患者に対して深く思いを聞けない
- ・ ひとりひとりの患者と向きあう時間の十分確保がむずかしい。多職種との協働が課題
- ・ より前向きな生活（治療、療養）に向かっていけるような援助ができればと思います
- ・ せん妄や精神症状の判断をすること
- ・ 看護師自身、看護師同士のケアが不十分だと思います
- ・ がん患者のストレスに対する対応は重要であり、実践できていると思う。しかし、がん患者に対応する Ns のストレスマネジメントは個人にまかされてしまい、新人以外に対してはストレスマネジメントの対応がなされる場面が不足していると思います
- ・ 家族へのアプローチが弱い
- ・ 治療方法が多くなってきており、Pt の身体的状態、精神的状態がさまざまになってきており、対応もさまざまになっている
- ・ 高齢、独居、金銭的な問題を抱えている Pt が多く、治療をすることが、はたして正しい選択であるかと思うことが多い
- ・ 今、患者さんが何を感じ、何を発しているのかを見ていけるようにしたいです
- ・ 看護師の考え方にもバラつきがあること
- ・ スペシャリストだけではなく、臨床看護師 1 人 1 人の対応力がもっと上がるのが望ましいが、患者にとっては多くのスタッフによってサポートされるという満足感も得られるので、スペシャリストの存在、対応の機会が必要。しかし必要な人に対して、対応できる人や時間は限られているので、個々のレベル UP は必要

Q3-2：今後、セミナーで取り上げて欲しいテーマをお書きください

- ・ 認知機能の低下したがん患者さんへのケアについて
- ・ 他国と日本でのケアの違い
- ・ 意思決定支援に関すること
- ・ チーム医療—全職種にきいてほしい
- ・ がんサバイバーシップ
- ・ 多職種（院内）との連携

- ・地域の医療者（院外）との連携
- ・高齢者、認知症増加に伴う対処
- ・PDになった時にではなく、早くから両方の可能性を考えて、自身がどうしたいかをかんがえてもらう必要性を伝え、どうそれを引き出す（聞く）か
- ・せん妄症状が出現した時の家族への声かけや協力の得る方法を知りたい
- ・地域で生きるがん患者のサポートについて
- ・意思決定
- ・若年性がん Pt の終末期の対応
- ・メンタルサポートが活かされた事例の紹介など いろいろ聞いて勉強したいです

Q-4：その他、何かご意見・ご感想があればお聞かせ下さい

- ・貴重な機会を与えてくださりまして、ありがとうございました。今後も心に留めていきたいと考えています
- ・心のケアが出来る様、今日の講義を生かしていきたい。ありがとうございました
- ・通訳の方がリアルに答えて頂き、わかりやすかったです。ありがとうございました
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました
- ・ありがとうございました
- ・Thank you very much ! Very excited !!